

研修報告書 No 40

研修施設：いの町立国保仁淀病院
仁淀川町立国保大崎診療所
昭和大学病院 田鹿佑太朗研修医

2013年1月、高知県内にて研修をさせていただきました。仁淀病院、大崎診療所、高知医療再生機構の方々には大変お世話になりました。この場を御借りしてお礼申し上げます。楽しく身のある研修生活を送ることが出来ました。

高知は温暖な気候との先入観で来てみたところ、昼間は確かに春を感じさせるほど暖かでしたが、朝晩の冷え込みは東京のそれ以上でした。清流として名を馳せている仁淀川沿いをジョギングでもしようかと運動用具を持ってきましたが、寒さから一度も官舎を出ることが出来ず、スーツケースにいれたまま持ち帰ることとなりました。

ただ、この気候と土地柄は私の大学時代過ごした佐賀県に似ている所もあり懐かしい気分になりました。

仁淀病院での研修は主に外来業務でした。普段は病棟業務、手術を中心に研修しており、眼科、耳鼻科、皮膚科などローテートしなかった科の外来を経験でき大変勉強になりました。ただ、常勤の医師がいない科も多く、医師不足が懸念されます。

2010年の厚生労働省のデータによると高知県の人口10万人当たりの現役医師数は274人と全国4位(最下位は埼玉県で142人と高知県のおよそ半分)の高水準であります。ただ、無医地区も多く、高知市に一極集中しているのだそうです。実際高知県をドライブしましたが高知市内から足摺岬に行くのにおおよそ3時間もかかってしまい、高知県は広いと実感しました。また、平野からすぐの所に山間部が広がっており、山間部の家も、道が先にできたのか家が先にできたのか考えさせるような狭い坂道の上であり、通院も一苦労だと思われる所も多くありました。実際、精密検査が必要となった場合、車でも市内の病院まで片道2時間かかるという地域もありました。人口当たりでは医者数は国内の水準からすれば足りている印象ですが、面積の100km²当たり30人(全国平均は67人)を切るという全国的に見ると低い水準であります。人口密度を考えれば一概に比較は出来ませんが、高知市内に医師が多いという現実を考えれば他の地域には足りていないと推察することができます。対面積比で考慮し、ある程度何でも診察、治療が出来る医師を確保するというのも重要なのではないかと考えられます。現在の研修プログラムではそういった医師を育成するよう組まれており、さらに、最近医学部定員も増え、まだしばらくかかるでしょうが徐々に増えてくるかと思われれます。

ただ、医師数の問題だけでなく、福祉の分野も問題山積であると言われていています。今回、訪問看護に初めて参加させていただき考えさせられるきっかけとなりました。例えば、老年夫婦共に寝たきりの家庭、一人暮らしで病院が遠く通院困難の方などそういった方々に対する介護、看護等の社会福祉の重要性を実感いたしました。医師として内服を処方し、診察終了となるのではなく、患者の社会背景にもしっかりと目を向けなければならないと思いました。軟膏一つも、一人暮らしでは背中にも満足に塗ることも出来ません。臀部の熱

傷の処置も毎日通院できないお年寄りには難しいものがあります。そういった際に、何とかかなるとおざなりにならないよう、看護師、ソーシャルワーカーに相談し、チームとして最善の治療を行っていきたいと改めて思うようになりました。

私自身、出身大学である佐賀を離れ、地元(東京)に戻ってきた身であり、少しばかり後ろめたさがあります。今後もしばらく関東で働く予定ですが、早く一人前に働けるようになり、人手の足りない地域で働く機会があれば今までの恩を返したく、貢献したいと考えております。